

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101383		
法人名	有限会社 コナン		
事業所名	グループホーム 大森の家 (ひまわり)		
所在地	島根県松江市宍道町上来待 204-4		
自己評価作成日	平成24年1月12日	評価結果市町村受理日	平成24年3月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=32
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9-16		
訪問調査日	平成24年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の居室を清潔にするよう心掛け、毎日の清掃以外にも、タンス内の整頓、ベッドの清潔を心がけるよう職員に周知している。
四季の変わりごとに、貼り絵を作成し、利用者に季節を感じて頂いている。
午後のレクリエーションに体を動かすレクを取り込み、毎日運動をしてもらっている。
毎日昼にミーティングを行い、サービスの向上 に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、リーダーが中心となり、ミーティングを毎日行い、利用者1人ひとりを理解し、理念に近づくよう努力し、ミーティングの中から実践につなげている	見えやすい場所に掲げ、理念を基本として業務に関わるよう、ミーティングの中で取り上げ、常に意識する形になるように日頃から話している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地区の行事には利用者と参加し、交流を図っている。中学生ボランティアを受け入れ、事業所への理解を深めるよう交流を図っている	自治会に加入しており、地域の行事には必ず案内をいただきできる限り参加している。学生ボランティアを受け入れたりと地域との交流は積極的に行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解をして頂けるよう地域行事には積極的に参加し、交流の機会作りをしている。施設行事にも参加の案内を出している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、状況報告や意見交換をし、利用者のケアに活かすよう取り組んでいる。参加者に発信して頂くよう、声掛けを行っている	地域、行政の関係者に主治医の参加もあり、2か月に1回のペースで開催している。家族の参加も多くあり活気あるものになってきている。意見交換等で出た意見を業務に繋ぎたいようにしている。	会議の議題については状況報告や意見交換が主になっているため、もっと幅広く地域密着型サービスの理解に繋がるようなものに取り組んでいただきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修や連絡会に参加したり、運営推進会議で報告、相談をしている	運営推進会議には毎回市町村担当者の参加があり、またグループホーム部会等でも積極的に連携を持つようになっている。日頃から電話等で意見を求めるようになっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が正しく理解出来ているとは言えないが、勉強会や全体ミーティングを2ヶ月に1回行い、職員の意識向上と理解を深めている。研修勉強会を今後も都度行っていく	虐待の研修と合わせて実施している。どういことが拘束になるのか、研修では理解できても日頃のケアではどうなのか等、勉強会を持ち、理解するようになっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修にて職員の理解を深めている。毎日の業務中も職員間でお互いに注意を払い、意識を高めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者がいないが権利擁護の研修等には、今後も参加して学んでいきたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所の考え方や取り組み、退去時を含めた事業所の対応可能な範囲について重要事項説明書を用いて説明している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からの意見要望は面会時にできるだけ話をするようにしている。また電話連絡の際、話を聴くようにしている。運営推進会議でも報告、話し合いをしている	運営推進会議や、面会時にできるだけ関わり意見を求めている。遠方の家族には電話や手紙等でも聞くようにしている。職員の中の言いやすい人に伝えてもらうなど家族の意見がしやすいよう配慮している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のリーダーミーティングで意見や提案をする時間の確保をしている。個別の意見をリーダーに都度受け付けるようにし、検討している。職場の人間関係作りに努力している	ケアや勤務状況などについても意見、提案が多くできるよう話合いの時間を持つようになっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給時や職務転換時において個人の実績や職責に応じた評価待遇となるように努めている。会社承認の研修会については、費用を援助し参加を促している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できるよう研修の案内をしたりレベルに応じた評価、待遇となるように努めている。ヘルパーの資格の無い人は、働きながらヘルパー資格取得の講習を受講してもらっている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を通じて情報交換をし、今後の取り組みの参考にしている。グループホーム部会の勉強会に職員が参加し、サービスの質の向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談を行い、本人の置かれている状況や心身の状況を把握し、サービスを行っている。その後の関わりの中での不安や要望を取り入れお話を聴きながら質の向上に努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面会時に今までの経緯や思いを聴き、要望にこたえるよう相談、話し合いをしている。より良い支援に向けて共に話し合い、信頼関係を作るよう努力をしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時本人や家族とよく話し合い必要な支援を見極め、状況に応じて対応している。適宜、必要なサービスを提供している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事を一緒にする場面を増やし、生き活きと生活出来るよう支援し、慣じみの関係作りをするよう努め、安心感を持って頂くよう努力している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話等の機会に情報の共有に努めている。毎月のお便りを通じて、情報を伝え家族の意見も引き出すようにし、面会のお誘いをしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や親戚、知人の面会の際にはまた来ていただけるような声掛けや雰囲気作りを心掛けている。また地区の行事などに参加し、馴染みの方との触れ合える機会作りをしている	今までの関係ができるだけ継続できるよう、雰囲気作りに気を配ったり、電話利用ができる方には、その機会を多く持つように配慮している。面会があったことを家族へも伝え、双方とも関係の継続に配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状況や気分で変化するので全ての利用者同士が上手く関わり合う関係が出来ているとは言えないが、職員が間に入り利用者同士の関係が円満になるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス、利用が終了しても家族からの悩みや相談があれば対応する		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時家族、本人の意向を聞きケアプランに反映させている。本人からの聞き取りが難しい場合は、家族に聞いたり日々の生活の中で見出してケアに活かすようにしている	ふだんの生活の中で声がけ、話を多くするようにして、その中から意向を感じ取るようにしている。入所前の生活については家族に記入してもらい、利用者本位のプランになるようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報提供書や入居前に記入して頂く私の暮らし方シートを基に本人や家族に聞き取りをし、これまでの暮らしの把握に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシート、手順書に現状を記入し、職員に声掛けし、把握するようにしている。現状が変わり次第、訂正している。また朝の申し送り時に職員間で一人ひとりの状況を把握している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に1ヶ月に1回は訪問して頂き、ケアについて話し合い、説明の機会を設けている。本人にも説明をしている。担当者とサービス作成者と二人で介護計画書を作成している	関わりが多く気づきの多い居室担当と計画作成者2人でプラン作成にあっている。家族には1か月に1回の面会時に作成者から説明し理解いただくようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の実践が直ぐに見られるようなカルテを作成している。モニタリングについても担当者と作成者で作成し、1ヶ月1回の会議で発表している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて個別ケアを実践している。既存のサービスはあるが、その日の利用者の身体状況に臨機応変して、対応、サービス提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	3B体操、音楽療法、各ボランティアの方々との交流がある。また学生ボランティアを受け入れている。小学校の運動会や地区の行事に参加している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後の主治医変更については、本人家族の希望する主治医としている。毎月1回往診の形で関係を築きながら24時間体制で相談できる体制になっている	主治医については、家族の意向に沿うようにしており、紹介状で変更する方もある。事業所のかかりつけ医とは密に連絡をとり毎月の往診、緊急時や、夜間の対応など24時間の対応に備えている	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置して常に利用者に健康管理や状態変化に応じた支援が行えるよう努めている。看護職員が不在でも記録を基に確実な連携が行えるようにしている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院されたら家族、主治医、職員間で病院との情報を共有し連絡し合っている。入退院時には、サマリーで情報交換し、退院時には、今後の生活について話し合いを行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、施設としての考えを伝えているが、重度化や終末期に向けては、その都度話し合いの機会を作り、主治医とも相談のうえ方針を家族、医師、職員間で共有するようにしている。病状の変化に対しても情報を共有している	かかりつけ医との協力体制ができており、複数の看取りを行っている。運営推進会議の場のかかりつけ医から終末期の対応についての説明もされており、施設としてできる限り家族の意向に沿うような形で看取りができるよう前向きな対応がなされている。	利用者の重度化が進んでいることから、看取りに於いてもさまざまケースが想定できる。家族や職員自身の精神的ケア等、より良い関わりができるよう幅広い研修内容を検討いただきたい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時消防署の協力を得て救急法やAEDの使い方の訓練を受けている。緊急時初期対応について勉強会をして全職員が対応出来るようにしている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回は消防署の協力で避難訓練避難経路の確認、消火器の使用方法等の訓練を実践している。緊急時は消防団や自治会、地域の協力を得る形や、近くに住む職員も対応できるようにしている	年に2回消防訓練を実施しており、1回は消防署から来てもらい避難訓練を行っている。緊急時は消防団や自治会、地元の団体等の協力を得る形や、近くに住む職員も対応できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務を守り、その方の人格を大切に心掛けている。記録物の持ち出しを禁止、プライバシーを保てるようにしている。利用者の方への声掛けには、尊厳をもって話しかけるよう気をつけている	守秘義務やプライバシーの確保についてはユニットごとのミーティングで取り上げるようにしている。写真の掲示などについても家族の了解を得た上で行うなど配慮するようにしている。トイレ介助が不適切な場合もその場で注意するようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えがあれば都度しっかりとお話を聴き、その方の思いや希望を聞くようにしている。またその方に合った言葉かけでお話ししやすいように導いている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活の流れはあるが、本人の体調や訴えにより、本人のペースを大切に、気持ちを優先している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回移動美容室を利用して、ヘアカラーやひげそりを希望される方もおられる。毎朝及び入浴後の整容の支援を行っている。外出する時や行事の際お化粧をする時もある		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何のメニューが好きか利用者にも問っている。利用者の方には、出来る範囲で準備や片付けを手伝って頂くようにしている	対面キッチンになっているため食事の準備等に関わりやすくなっている。野菜の皮むきなど、テーブルやお膳を拭くなど役割分担をし、利用者のできるところを手伝ってもらっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は「一日表」に記入している。状態の悪い方や摂取量の少ない方には特に気を付けて記録、記入している。水分にムセのある方にトロミを付けて対応している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを必ず施行している。利用者のレベルに合わせて介助したり、見守りしている。うがいの出来ない方は口腔ブラシを使用したり、義歯洗浄剤で義歯消毒を定期的に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛け誘導している。定時のトイレ誘導の時間を設けているもタイミング良くトイレ誘導を都度行い、不潔にならないよう心掛けている	できるだけトイレで排泄できるよう個々の排泄パターンを把握し、チェック表を見ながら声掛け誘導している。すぐに紙パンツにはならないよう布パンツ等本人に合った対応としている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューに野菜類や繊維質な食材を取り入れるようにし、水分をしっかりとすすめるよう、補水に努めている。下剤処方されている方には個々の状態に合わせた下剤調整を行っている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は毎日設けて、隔日を目標に、午前、午後に分けて入浴してもらっている。利用者の希望を確認している訳ではないが、希望に沿うような形で実施している。入浴拒否のある方にはタイミングを見計らい対応している	週3回は入浴できるように声がけし、夜間の対応は難しいが、午前午後、希望に沿うような形で実施している。重度な方にはシャワーキャリーでシャワー浴や清拭で対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	終身時間、起床時間は決っていない。居室で眠れない方にはホールの畳コーナーで寝て頂く等の配慮をしている。また御茶を飲んで頂く、お話を聴くなどして安心して頂いている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に最新の薬剤情報をカルテに閉じて、情報を得られるようにしている。臨時薬処方や服薬変更の場合、業務日誌、申し送りノートに書いたり、体調異変あればその都度申し送りをし、カルテに記入している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などの情報から個々の楽しみをみつけ、レクリエーションとして取り入れたたりしている。また個々の現在出来る趣味などは、あいた時間を利用し楽しんで頂いている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により1ヶ月に1回はお出掛けをしている。天候の良い季節、体調に考慮しながら外出を計画している。また天気の良い日には、外気浴や散歩、外でのお茶会を楽しんでいる。地域の行事に参加し、皆で楽しんでいる	ユニットごとに計画しできるだけ外出の機会を持つようにしている。声がけによって家族の参加もある。天気の良い日には特に計画がなくても希望に沿って出かけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承の下にお金を持っておられる方や外出時には、施設で預かっている小遣いから渡せば自分で支払いをする方もある		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、事務所の電話を使用してもらっている。時々手紙を出したい希望の方には、便箋や切手を用意している。毎年、年賀状は全員出している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の各空間は、毎日清掃し、穏やかに過ごせるよう配慮している。玄関には、なるべく生花を生けたりホールには季節ごとの貼り絵や飾り、利用者の作品などを置いている。空気洗浄機や加湿器で過ごしやすいようにしている	共有空間は長時間日の光が入り、明るく自然な温かさがある。空気清浄器や加湿器で過ごしやすく配慮も見られる。天気の良い日には、外でお茶を楽しめるような庭もあり、高台で景色も良く、くつろげるようになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席は決まっているが、昼休み中など、気の合った利用者同士お話し出来るよう席の工夫をしている。畳コーナーに腰かけて洗濯干しなどして、会話づくりをしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた物や馴染みの家具を持ち込んで頂くよう積極的にすすめている。本人の動きやすさを重視し、危険ないように配置している。本人の気持ちも大切にしている	使い慣れた物やなつかしさが感じられる物など持ち込みを積極的にすすめており、生活しやすい居室になるように配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分からなくなる利用者に対しては、目印になるものを入り口に付けて、自立の工夫をしている。なるべく、自分でやる力を活かすよう声掛け、見守りを行っている。危険ないよう見守りを重視している		